

令和6年度東部地区道徳教育研究協議会

羽生市立川俣小学校

【低学年部会】

主 題 名 苦手なことを避けない

内容項目 A 希望と勇気、努力と強い意志

教 材 名 「マラソン」

(彩の国の道徳「きょうもげんきに」)



授業の様子



協議会の様子

1 各グループからの発表（ワークショップ型分科会）

- よい雰囲気の中で授業が展開され、日頃の積み重ねを感じた。
- 導入では、自分事として考えることができる工夫があった。日頃、自分が頑張っていることや苦手としていることを思い浮かべることで、後の話合いで生かせると感じた。
- 主人公の強い心と弱い心を役割演技する場面では、教師がファシリテーター役をしていたことが参考になった。
- 葛藤場面を考えさせるときは、はっきりできない気持ちもあるので、真ん中の揺れ動く気持ちも大切にしていきたい。
- 問い返しが効果的で、学級全体の話合いが深まった。考えの拾い方や広げ方が参考になった。
- グループで話合うことを通して、考えが深まっている様子が見られた。

2 指導講評

- あたたかい雰囲気のある学級経営をされている。
- 教育活動全体を通じて、着実に道徳教育が行われている。
各学校においても、全教育活動に関連していることを改めて確認していただきたい。
- 児童にとって深い学びとなるように工夫し、意図をもって授業展開をすることが大切である。どの児童にとっても、「授業でみんなと一緒に考えてよかった」と思える時間にしたい。
- 道徳的価値について考えるために、第一発問の葛藤部分は大切である。主人公はマラソンがすごく苦手なことに共感できないと弱い心が出ない。「みんなにも何か苦手なことがあるかな？」のように問い、みんなにとっての苦手なことが、主人公にとってはマラソンであることを捉えさせたい。苦手なことにもかかわらず、頑張っていることに価値がある。
- 内容項目に「自分のやるべき勉強や仕事をしっかりと行うこと」とあるが、「なぜ、それを行うべきなのか」について考えさせることで話合いが深まる。自分自身を高めていくことにつながることに気付かせたい。

